

大阪総合デザイン専門学校

学校関係者評価報告書

(令和2年度)

実施日＝令和2年9月25日

学校法人上田学園

大阪総合デザイン専門学校

学校法人上田学園 大阪総合デザイン専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年6月から毎年6月に本学園のホームページ上に公表いたしました。

また、平成25年度より、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施いたしております。学校関係者評価委員会では、第三者の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年10月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
大阪総合デザイン専門学校 校長 丸岡宏次

1. 「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「令和元年度学校自己評価報告書」に基づき、本校と関係の深い4名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

各評価委員には、事前に「令和元年度学校自己評価報告書」等の学校評価に関連する資料を配布した上で、学校関係者評価委員会でご意見を頂戴しました。今年度は、コロナ禍の状況を鑑み、委員長と学校関係者は校内から、各委員はご自宅等から参加というリモート形式で会議を進行しました。評価委員からのご意見は、校長が承り、その内容等について要約の上、報告書として取り纏めました。

令和元年度学校自己評価報告書と併せてご覧いただければと存じます。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員	当校との関係属性等	備考
井村 良裕	同窓会名誉会長・評議員 卒業生の代表として参画 毎年、卒業制作の中から同窓会会長賞を選出頂いている。	委員長
鵜飼 隆	(有)タイトルアート 代表取締役 卒業生を継続的に多数ご採用頂いている企業の代表として 参画	
廣瀬 勇一	(株)ロイスエンタテインメント 代表取締役 卒業生・留学生を採用頂いている企業の代表として参画	
飯田 俊子	元(公財)大阪観光局 常務理事 地域振興における有識者として参画	

3. 学校関係者評価委員会 次第（令和2年9月25日開催）

1. 校長挨拶
2. 自己評価報告書の概要説明
3. 重点目標、事業計画、今後の取組み方針等の説明
4. コロナ禍の対応について
5. その他

その内容等について、学校評価ガイドラインの大項目に沿って、要約の上、以下の通り報告いたします。

大項目別 学校関係者評価結果 意見・助言

No.	大項目	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切 2 不適切:1	意見・助言
1	教育 理念 ・ 目的 ・ 人材 育成像	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力あるデザインを生み出す表現者を教育するという教育理念を、現代にあった形で具体化できていると思う。 ・50年以上の歴史の中で学校の理念・目的人材育成像はしっかりと形成されていて、教職員にも浸透していると思う。
2	学 校 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針、事業計画、具体的な規則等は、明確化され、実際に規定・体制に従った形で運営されていると思う。 ・オンライン・デジタル時代に対応するため、今後はより一層の情報システムの強化が必要かと思う。 ・情報公開については、Web 上での公開が社会的にも求められてきており、適切で分かり易い情報提供が必要だと思う。
3	教 育 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得する 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化、業界ニーズの変化に対応して、複数年計画で教育体制・カリキュラムの進化を進めている点は素晴らしいと思う。 ・業界や市場のニーズへの対応は取られているが、学生たちのニーズは把握できているのか。それによって、自分をどうデザインするか、入口と出口の問題にも関連してくると思う。 ・今の学生は、スマホやタブレットには慣れているが、PC を使えない学生もおり、IT スキルの教育が不可欠である。 ・職業実践専門課程においては、企業と連携した作品・商品作りに取り組み、着実に実績を積み上げている。また、地域活性化のための産学共同事業や、公的機関へのデザイン提供等にも非常に積極的に取り組んでいると思う。

		<p>ための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の能力開発のための研修等が行われているか 		
4	学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、デザイン、アート系の教育機関のため、その学生の特性として、精神面での各種課題がある中で、学修成果の向上に熱心に取り組んでいると思う。 ・退学率が目標を超えている学科もあり、収入にも関わってくる問題で、状況の把握が必要。特にコロナ禍では、経済的要因によるものが増加しているのか。 ・卒業生に関しては、同窓会が組織されており、作品展で卒業生フォーラムを開催し、卒業生の活躍を披露すると共に、在校生との繋がりも形成している。
5	学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への支援において「ジブンデザイン」というコンセプトのもとに、学生個人々に寄り添った対応ができる体制と環境を整えていると思う。 ・従来のキャリアサポートセンターの役割を、キャリア教育を別建てとし、自分の道をどう生きていくか、カリキュラムの選択も合わせて学生に指導している。 ・学校独自で学びの継続のために、学生への授業料減免制度を策定し、経済的支援に力を入れている。 ・留学生増加に伴い、困難な課題もあると思うが、オンラインを活用して要望の聴取や対応に尽力してほしい。
6	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な教育環境は整っているが、今後のデジタル化へのより一層の対応が必要かと思う。 ・オンライン授業に関しては、学生の居住環境も影響してくる。コロナ禍では、学生全員にWi-Fi等の準備金として5万円を支給した。 ・防災に関しては、ハザードマップなどを活用して、更にレベルアップした対応が求められている。

7	学生の受け入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や説明会等、デザインの楽しさを伝えるため、真摯に行っていると思う。 ・募集が好調のようだが、なぜ伸びたのか、分析をし、要因をしっかりと把握することが必要ではないか。 ・IT化に伴い、入学申請もスマホからのWEB申請が増えてきており、入学希望者、保護者等への情報発信が重要になる。
8	財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計検査が適正に行なわれているか ・財務情報公開の体制整備はできているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・最近ではコロナ問題で留学生の減少という懸念があるが、中長期的には収支均衡のための施策を適切に実行していると思う。 ・今年度、定員充足率を達成できた為、次年度は国の修学支援の対象校となり、補助金を得られるようになり、募集状況が持続できれば黒字化が図れる。
9	法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか ・自己評価結果を公開しているか 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・非常にしっかりと適法な運営がされていると思う。
10	社会貢献 ・ 地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域連携を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化のための産学共同事業や、公的機関へのデザイン提供等、社会貢献・地域貢献は非常に積極的に行われていると思う。
11	国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか 	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・直近のコロナ問題への対策を取りつつ、中長期的に留学生の受入れをさらに伸ばすための戦略がとられていると思う。 ・今後は、オンラインと対面を組み合わせたハイブリット型の授業形式になると思うが、留学生が多いという現状を踏まえると、オンライン授業の充実が課題となる。日本に來れない学生などを対象として、オンライン授業を実施してほしいと思う。

<p>総括的な ご意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会においても新型コロナウイルス禍とこれからのウイズコロナ時代のデザイン専門学校の成長について話題が集中したように、この課題への対応を抜きにしてこれからの方向性を見出すことはできず、また、過去の様々の取組を適正に評価することもできないと思う。「想定外の事態」に直面したときにこそ真価が発揮されるからである。そこで、想起して欲しいことはアーティストやクリエイターの創作の原点は自分自身にあるということ。「密」を避けるべき今という時は、環境のほうから創造者に原点回帰を促してくれる、まさに「ジブンデザイン」のまたとない好機と言えるのではないだろうか。その意味で、文字通り今直面している時代が、新しい学校のコンセプトの正しさを後押ししてくれているのかも知れない。教員は今、「密」から「個」に帰ることの創作上の大きな意味を、学生に伝えるというまたとない重要な局面にいる。「ジブンデザイン」の原点を伝える大きなチャンスをついに活用するようお願いする。学生が「ジブンデザイン」を目指す先にはユーチューバーがあるのか、TikTok があるのか、それ以上のオリジナルな世界があるのか。あるいは、親元の仕送り減に抗して Uber Eats を駆けつつ彼らが目指す未来に向けて、この時代ならではの教員達の豊かな指導に大きな期待をしている。 ・他校との差別化の為に様々に試行、改善の努力を続けていることは高く評価できる。コロナ禍の終息が見えにくいなか、オンラインの活用を、対面授業を補足するものとしてではなく、特にネットでしかできないこと等を模索して実施してほしい。学生たちに提案・コンペなども案やニーズを得る手がかりになるかもしれない。コロナ禍がいつかおさまったとしてもグローバル化の傾向は変わらないと思うので、その意味でもオンラインの活用、表現は重要だと思う。 ・コロナ対策という大きな課題を抱える中でも、非常にしっかりと学校運営をしていると思う。逆にコロナ問題を契機に、オンライン化、デジタル化を進めることが出来れば、新しい教育の形を構築できるのではないかと思う。 ・本年度の報告書に於いては、項目の標題及び文章内の用語等に関して、より詳細な表現に努め、読む人により理解し易い内容になっていることは評価出来る。
---------------------	--

* 各委員に項目ごとに4段階評価を受け、総合評価として平均値を記載。

6. 終わりに

校長から各委員に貴重なご意見を頂戴したことに対して謝辞を述べ、今回提示された学校、学園運営の課題等は、所轄部所にて改善策を検討することとし、閉会となった。

以上